

Medical Library

書評・新刊案内

看護教育のための自己点検・評価・改善 現場発のカリキュラム・マネジメント

糸賀 暢子, 山口 麻起子, 西岡 加名恵 ● 著

B5・頁388
定価:3,960円(本体3,600円+税10%) 医学書院
ISBN978-4-260-05366-2

評者 高口 みさき
愛知県立総合看護専門学校学校長

著者たちの前著『看護教育のためのパフォーマンス評価』は、現代の教育改革の土台になっている「逆向き設計」の考え方を導入し、その実践の過程を紹介することで、伝統的な看護教育の在り方に警鐘を鳴らすものとなった。私含め、多数の読者に支持されるロングセラーとなっている。あれから7年。それまで想像もしなかった世界規模での新興感染症のまん延が起こり、看護師の社会的評価が高まるとともに、この時代は常に予測不可能で、危機は背中合わせにあることが実感できた。

看護基礎教育が、そんな変化の激しい世の中に立ち向かえる看護師を養成できているのか——。飽くなき自問を続ける著者の糸賀暢子自身が日々の教育現場の中で、目に見える世界と、こころでしか見えない世界に真摯に向き合ってきた履歴が、再び一冊の本にまとめられて世に出た。

出版の意図について、「看護の本質を貫く教育のための点検・評価・改善を実現したいと願う読者のための本」だと、著者は述べている(本書p.iii)。前著に刺激されつつ、新カリキュラム構築の際も思い切った改革にまでは踏み切れないまま、本当にこれで良いのかと自問していた私にとって、本書はおいしい料理ならぬ、素晴らしい看護師の育て方のヒントを与えてくれる、そんな素敵なレシピ本であった。私たち看護教員にとっての「あるある」が詰まった57の具材(エピソード)から、まさに自らの教育実践のありようが連想させられたからだ。

本書は、どの章から読んでも、学生のリアルな泣き笑いの姿を通して、読

者それぞれの実践の振り返りが促され、改善の方向性を示してくれる。各章末に設けられている紙上ワークに向き合うことでも、固くなった自身の思考がほぐれていくことが実感された。そして、驚くべきことにその一つひとつの学びは、カリキュラム・マネジメントの視点でしっかりとつながっている。そこに見えてくるのは、「看護とは何か?」「私たちは本当に看護を教えているのか?」という真正の問いである。そもそも看護を教えるためには、そこにある最善を尽くす看護を教師自身が深く理解しなければ教育内容は見え

学生の成長を心から願う 看護教員必須の現場レシピ



てこないし、ルーブリックも作成できない。

なぜ著者は、こう惜しげもなく学生との奮闘記を示してくれるのか。それは「看護が大好き」な看護師を全国で広く育てたい、という熱い想いからに他ならない。「うちの学校ではこうした取り組みは無理だ、忙しくてとても……」と言っているその時間があったくない。本書を手にし、「それでも、やっている教師がいる。学校がある」ということを実感してほしい。まずはどのページからでも、読者がいま困っている項目からでも読み、これまで漫然と行ってきたかもしれない己の教育を看破する光を見つけてみてはどうだろうか。

「recipe」の語源は、ラテン語で「受け取るもの」という意味がある。私自身も著者たちの看護教育に向き合ってきたその真髓を、本書を通してしっかりと受け取りたい。そして、自分自身を「看破」し、学生の成長を心から願えるような教師でありたい。

第38回日本がん看護学会学術集会開催

第38回日本がん看護学会学術集会が2月24~25日、鈴木久美会長(大阪医薬大:右写真)のもと、「コラボレーション——深化・進化するがん看護」をテーマに神戸国際展示場(神戸市)、他に開催された。本紙では、シンポジウム「次世代のがん医療を支える“多職種協働型人材養成”」(座長=兵庫県立大・川崎優子氏、徳島大大学院・今井芳枝氏)の様態を報告する。



◆がん看護の質向上をめざした「がんプロフェッショナル養成プラン」

本シンポジウムは、がん医療を担う医療人の養成推進をめざし、国公私立大学から申請された優れた育成プログラムに対して文科省が財政支援を行う「がんプロフェッショナル養成プラン(がんプロ)」をテーマに開かれた。

最初に登壇した文科省の菊池博之氏は、政府が策定した「がん対策推進基本計画」を踏まえて2007年よりがんプロが始動したこと、これまでがん対策推進基本計画の改定に対応する形で見直され、2023年度から第4期が開始されたことを説明。看護師だけでなく多職種が受講し、第3期までの15年間で正規課程、インテンシブコース合わせて10万人以上を受け入れ、がん看護専門看護師数もがんプロが開始された2007年より急激に増加したと、その成果を報告した。第4期では、①医療現場で顕在化した課題への対応、②がん予防の推進、③新たな治療法の開発をテーマに、各地域11大学を拠点に全国76大学がそれぞれの教育コースを設けていることを紹介し、全国でがんの専門資格を有する看護師が増加し、がん医療・看護のさらなる質の向上、均てん化推進に期待を寄せた。

第1期よりがんプロに参画する高知県立大の藤田佐和氏は、第4期がんプロからわが国のがん医療・地域医療の先を見据えて在宅リエゾン看護を新たに取り入れ、講義、演習、実習それぞれの科目で教育内容を拡充していることを会場に共有した。次に氏は、がん看護実践に携わる看護職を対象としたリカレント教育を紹介した。同大では、地域のがん医療に携わるがん診療連携拠点病院、訪問看護ステーション、在宅支援診療所等の看護職や他職種、教育機関の講師が協働してプログラムを運営している。具体的には「在宅がん看護」や「高齢がん患者」のケアに携わる訪問看護師、病棟・外来看護師が質の高いがん看護実践を系統的に学ぶことを支援する90時間15日間のインテンシブコースと、がん医療の新たな課題解決に向けて専門看護師、認定看護師の学修を支援する4科目60時間8日間の高度実践看護師コースである。修了生は獲得した力を実践現場で発揮するとともに、専門看護師・認定看護師教育課程に進学するなど好循環を生んでいるとの考えを示した。

「がんプロ教育では高度化・細分化・複雑化するがん医療を正しく理解するため、病態生理学、薬理学、ヘルスアセスメント等の講義、実習が38単位と充実しており、個別性のあるケアを提供するためのキュアの理解が深まったことで、自身のサブスペシャリティである頭頸部がん看護にも生かされている」と振り返ったのはがんプロ修了者の田中圭氏(長崎医療センター)だ。がんプロでは看護師だけでなく多くの職種の受講者が地域、大学院の垣根を越えて学び合うため、各職種の強みや価値観、苦悩を理解できたことで、チーム医療の実践に生かされていると述べた。さらに氏は現在、頭頸部がん看護の質の向上と均てん化をめざして全国的な看護師グループ、頭頸部がんにかかわる医療福祉従事者の研究会を立ち上げ運営していることや、小中高校生を対象とした「がん教育」の普及に約10年間携わっていることにも言及。「こうした社会活動はがんプロでさまざまな刺激を受け、そこで培ったネットワークを生かすことで実現できている」と述べ、がんプロの「多職種協働型人材育成」はキュアの理解を深めケアを見つめ直す機会であり、患者や家族、組織、地域の課題解決のための医療チームづくりの素地を培う教育プログラムであると評価し、発表を終えた。

座長の川崎氏はがん対策推進基本計画に掲げられている「がん予防」「がん医療」「がんとの共生」の課題を解決するには人材育成が必要であり、組織の変革ができる高度実践看護に焦点化し、がんプロ教育成果を踏まえて共有したと企画の背景を会場に共有。4月30日(火)までオンデマンド配信されていることを紹介し、本シンポジウムが若手看護職のキャリア支援や、看護管理者の人材育成計画につながることに期待を寄せた。

亡くなる過程を科学する

死亡直前と看取りのエビデンス

第2版

森田 達也 / 白土 明美

「亡くなる過程(natural dying process)を科学する」という視点を国内で初めて提供した書籍の第2版。今改訂では、初版刊行以降の国内外における新たな研究知見をふんだんに盛り込み、著者自身の経験に根差したわかりやすい解説とともに、新たな知見がどのように臨床に役立つのかにも重点が置かれている。「死亡直前と看取り」に携わるすべての医療職者に向けた待望の改訂版、ここに堂々の刊行!

目次 第1章 死亡までの過程と病態
第2章 死亡前後に生じる苦痛の緩和についてのエビデンス
第3章 望ましい看取り方についてのエビデンス

「死」をエビデンスから捉えたロングセラー
「亡くなる過程(natural dying process)を科学する」という視点でまとめた本書、新知見を盛り込み充実の改訂!

詳細はこちら

B5 2023年 頁312 定価:3,740円(本体3,400円+税10%) [ISBN978-4-260-05217-7] 医学書院

●「週刊医学界新聞」の名称および発行形態変更のお知らせ

弊紙は2024年4月より週刊発行から月刊発行(毎月第2火曜日発行・2色刷16頁建)に変更いたします。これに伴い、名称を「医学界新聞」と改めます。初回発行は2024年4月9日を予定しております。

これからも、日本の医学・看護領域における最新の知見を、公正に、的確に伝えるよう努めてまいります。引き続き、ご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

コーチングマインドを身につけ、看護管理者自身も、スタッフも患者もみんな元気に!

<看護管理まなびラボBOOKS>

コーチングマインドを極めると、マネジメントがもっと楽しくなる

より良い組織をつくるため、患者により良い看護を提供できるスタッフを育てるために…。日々、看護管理者は自分自身を奮い立たせ、頑張っているのではないだろうか。本書の主人公、話すとなぜか元気をもらえる山原看護部長。その理由とは?本書では、山原看護部長によるコーチング研修をストーリー仕立てで展開。看護管理者がコーチングマインドを身につけると、管理者自身も、スタッフも明るく元気になれる。

勝原裕美子
山之上雄一

